

9. やけどをしたとき



やけどは、皮膚が耐えられる以上の熱が加わって起こる皮膚の炎症で、大きく3段階にわかれます。また、対処の方法が違います。

- 第1度 皮膚の表面は赤くなっている、水ぶくれにならない程度
- 第2度 水ぶくれを伴っている状態
- 第3度 皮膚が表面だけでなく、深い部分までダメージを受けている状態

応急処置のポイント

- まず、やけどの原因となるもの（カレーのルーなど）がまだ皮膚に付いているときは、流水で洗い流す。
（無理にこすって落とさないでください。）
- 第1度と第2度では、流水や冷水、冷やしたタオルで十分に冷やしてください。
水ぶくれは、つぶさないようにしてください。
- 第3度のやけどは、冷水に浸してはいけません。体を清潔なシーツなどで覆ってから毛布をかけて保温し、救急車を呼んでください。
- 服を着たままのやけどの場合には、服の上から冷やすようにして、無理に服をはがしません。

こんなときは、急病診療所などを受診しましょう

- やけどの程度が軽くみえても、やけどの範囲がこどもの手のひらより広いとき。
- 水ぶくれができているとき。

こんなときは、救急車を呼びましょう

- やけど部分が、白、もしくは黒くなっているとき。(第3度)
- やけどの範囲が全身または広範囲なとき。

注意しましょう

- 水ぶくれを破ると、そこから菌が入り化膿する恐れがあるので、破ってはいけません。
- こたつ、電気毛布、電気カーペットなどは、長時間触れると「低温やけど」をする危険性があります。